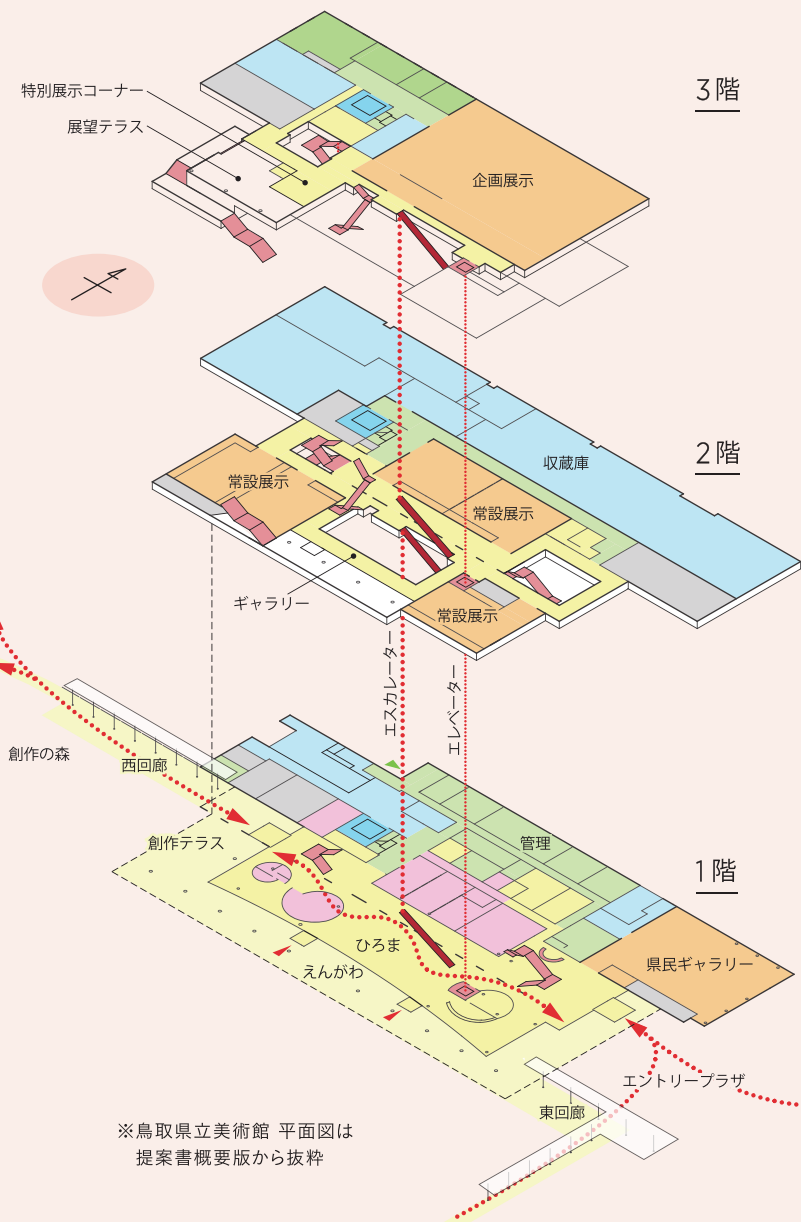


「とっとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!

PFI事業者による設計・運営についての
説明用の動画をWebサイトで公開しています。
今回は気になる各フロアの概要をお伝えします!

※今後、計画を進行するなかで一部変更になる場合があります



POINT まちとつながる美術館

美術館に隣接する倉吉未来中心、市立図書館など、周辺の文化的なスポットとの導線を意識した設計で、『ひろま』の賑わいをまちに展開し、新たな回遊性を生み出していきます。

FLOOR 1

キッズルームやワークショップルーム、ショップなどが配置された、人の行き交う賑やかな空間です。鳥取県立美術館の特徴である『ひろま』は、展示やパフォーマンス、ワークショップ、結婚式など多様な活動ができるオープンスペースです。ちなみに、水書などから作品を守るために、1階は75cmかさ上げしています。

POINT ひらかれた美術館

建物の南側を誰もが立ち寄れる部分、北側を作品を守る部分に分けて空間を整理。賑わいの空間と、落ち着いた鑑賞のための空間を共存させ、美術鑑賞のみならず、誰でも気軽に訪れられる美術館を目指しています。

※鳥取県立美術館 平面図は
提案書概要版から抜粋

FLOOR 3

広々とした企画展示室は柱をなくし、どこからでも鑑賞しやすい空間に。建物の南側にある展望テラスは、大御堂廃寺跡や倉吉市内を一望でき、天窓から柔らかな光が降り注ぎます。

FLOOR 2

心地良い吹き抜けでつながる2階には、コレクションを鑑賞できる5つの常設展示室があり、作品をゆったりと鑑賞することができます。

**POINT 立体的な回遊性が
生み出す出会い**

館内を立体的な導線でつなぐことで、多様な空間を回遊し、作品との出会いや新しい体験を生み出す設計に。また企画展を見終わった後に自然と常設展示に足が向く仕組みで、鳥取ゆかりの作品に親しみやすい環境も整備していきます。

今号の運び人
passer

舞台は 智頭杉林 〒689-1433 鳥取県八頭郡智頭町大字埴師

開館に向けて
鳥取各地を
白い箱が旅します



智頭町在住の
アーティスト

淀川テクニック
柴田英昭さん

2003年大阪・淀川の河川敷を拠点に活動開始。2014年から智頭町在住。赴いた土地のゴミを用い、人々と交流しながら滞在制作を行っている。「コラージュ川柳」の発案・考案者でもある。

Q 鳥取県立美術館に期待することは?

A 僕はゴミや漂流物を使い作品をつくっています。鳥取の海には、ハンブルや中国語で書かれたものも流れつくのですが、そこに僕は大陸とのつながりを強く感じます。今アートの世界ではアジア圏がすごく元気。県立美術館には、日本海に面した鳥取県ならではの海外交流も大切にしてもらいたいです。

Q 鳥取県立美術館でやってみたいことは?

A 子どもたちとワークショップをしたいですね。漂流物をテーブルの上にとどかさず並べて、その日だったらいつ来ても自由に参加できるようにしておいて。僕の作品では魚や鳥などの生き物に見立てて造形していくことが割と多いです。要らない物が、生き生きしたものに変わると面白いですよ。

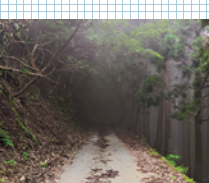
柴田さんへのロングインタビューは
Webメディア「totto」にて公開中!



Passer's Recommend



1 藍染工房ちずぶる一
地元で育てた藍を原料にした藍染の染め物。のれん、風呂敷、バッグなどさまざまな製品があります。



2 旧道・山道でのジョギング
おすすめは一息坂峠や黒尾峠です。車で通れないところを自分の足で分け入っていくのが楽しいですよ。



3 富沢古墳
富沢古墳は7世紀前半につくられた円墳。なかに入って、石棺に触れることも。歴史ロマンを掻き立てられます!

県博 NEWS & TOPICS

01 ザ・フィンランドデザイン展 ~自然が宿るライフスタイル~



Photo : Rauno Traskelin

200年にわたりフィンランドを支えた染織およびガラス工芸の分野の名品を中心に、彩りに溢れ、創造性に満ちたデザイン・プロダクツの数々を紹介します。

会期 2020年10月10日(土)~11月15日(日)
※10月26日(月)は休館

会場 鳥取県立博物館 第1,2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般1,000円

◀ タピオ・ヴィルツカラ《ウルティマ・トゥーレ(世界の果て)》
グラス(1969年/イッタラ・ガラス製作所/コレクション・カッコネン蔵)

02 シリーズ：ミュージアムとの創造的対話03 何が価値を創造するのか?



Photo: Hiromu Narita Courtesy of Kenji Taki Gallery

80年代から現代アート作品を収集してきた個人コレクターのコレクションと、当館収蔵作品のアーティストによる新旧作の展示を通じて、美術作品における「価値」について考察します。

会期 2020年11月28日(土)~12月27日(日)
※12月14日(月)は休館

会場 鳥取県立博物館 第1,2,3特別展示室、サテライト会場【株式会社丸十(倉吉市秋吉)、Aコレクションストレージ(倉吉市和田東)ほか]
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般600円(団体・前売は400円)

◀ 渡辺英司《星の名前》(1997年/サイコロ、油彩)

美術館建設前を楽しむ
イベントを企画中!

開催予定 2021年3月20日(土)

鳥取県中部地区の青年経済3団体で組織する「美術館盛り上げ部会」が中心となって、美術館建設がはじまる前のこの時期にしかできないイベントを計画しています。乞うご期待!

『Pass me!』は2024年度開館予定の鳥取県立美術館ができるまでを発信するフリーペーパーです。県民一人ひとりがプレイヤーとなって、さまざまな人へと「Pass」しながら、ともに鳥取県立美術館をつくっていく足跡を伝えます。
発行日:2020年10月16日 発行元:鳥取県立博物館 編集ディレクション:多田智美(MUESUM) 編集:妹尾実津季(MUESUM)、水田美世 アートディレクション&デザイン:三宅航太郎・森本歩美(うかぶLLC) 表紙・今号の運び人撮影:藤田和俊

パスミー! 県民とつくる
鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン

Passme!



コロナ禍でも
設計準備は
進行中!

2024年度の美術館オープンに向けて、基本設計進行中です!

HISTORY OF MUSEUM

2020 (R2)

1/18

アートの種まきPROJECT メディアづくりシリーズ5を実施

ウェブマガジン「totto」編集長の水田美世さんを講師に、ライティング(文書作成)講座を行いました。参加者は、米子市美術館の企画展とその出品作家の秋山さやかさんを取材し、壁新聞を作成する課題に挑戦。限られた時間のなかで記事を書き上げました。



2/29

普及事業や 常設展示が中止に

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月29日～5月末の当館主催イベントを一時的に中止。また、4月13日～5月6日には常設展示室を閉室しました。再開後は、マスクの着用やフィジカルディスタンスの確保などをお願いしつつ、展示やイベントなどを行いました。



くじ引きで担当の記事を決める



秋山さんのギャラリートアーに参加

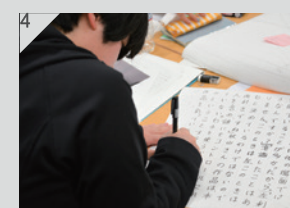


WS参加者

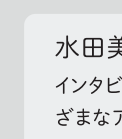
磯崎つばささん
記事を作成するために作品を鑑賞する経験はじめて。いつもなら通り過ぎていたことや言葉を拾い集め、考えを整理したり、ほかの参加者の考えを共有できたのは、貴重な体験でした。



ギャラリートーク参加者への取材



原稿を壁新聞に書き込んでいく



WS講師

水田美世さん(totto編集長)
インタビューから4コママンガまで、さまざまなアウトプットのかたちと、それを生み出すための視点を実践し、考える内容になりました。短時間で集中してつくり上げた喜びはひとしおでした。

Collection Recommend

フェスに行きたい 人に
おすすめの名作

小早川秋聲《天下和順》
1956年／絹本着色金泥



専門員・山本亮 選

大勢で集まるに集まらないものかしい毎日、そんなフラストレーションを一掃してくれる一枚。ただ、今はぐっと堪えて、キープソーシャルディスタンス!

解説 金地の上に描かれた、肩を組み楽しげに踊る人々。1956年に制作された本作は、1950年にはじまった朝鮮戦争により南北の対立関係が続いていた朝鮮半島の平和を願って描いたと考えられる。



3/31

『Pass me!』2号目発行!



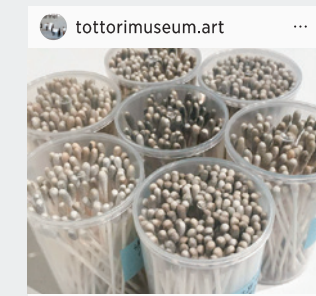
4/1

倉吉未来中心内に 「美術館整備局」を新設

今年度から設計、建設が本格化するため、建設予定地に隣接する倉吉未来中心内に「美術館整備局」を新設。地域や学校、観光や地域づくりの分野などとも連携していきます。

美術部門 学芸チームの
投稿を
覗き見!

@tottorimuseum.art



2020.05.10
お目汚し失礼します。この黒ずんだ綿棒の山……耳掻きをしたわけではありません。浜田宣伴《青年像》(1929)の画表面に付着していた汚れや、画面を保護するために被膜をつくる目的で塗布されていたワニス を拭き取ったものです。…
【続きはInstagramにて!】
#美術家大辞典を読む



2020.06.01
博物館ホールの景色が時折変化していることにお気づきでしょうか? 休館日の今日は、年に2度おこなっているホールでの立体作品の展示替えをしました。…
【続きはInstagramにて!】
#鳥取県博ホール展示の変遷



2020.08.06
#鳥取県立美術館建設予定地定点観測

5/8

Instagramでの情報発信を開始

どうしてInstagramをはじめたのですか?

博物館が一時休館し、コレクション展の開幕が遅くなったことが直接の契機です。同時期に、当館の自然分野の学芸員がWeb上で「おうちで自然観察」の連載をはじめたことも後押しに。作品解説や広報に留まらず、「美術にまつわる何か」をめぐるトピックを設け、それらについてみんなで考え続けられる場をつくりたいと思っています。

中の人に聞きました! interview 学芸員・友岡真秀

やってみて、一言!

なかなか渋めのビジュアルではありますが、徐々に学芸チームの視点が垣間見えてきたように思います。作家が作品を制作する際に取材したであろう場所を訪ねたり、県内で作例を探し回ったりする「フィールドワーク系」の投稿は、肉体的にハードな側面もありますが、見つける楽しさは何ものにも代えがたいものがあります。

5/28

鳥取短期大学で 「コレクション宅配便」を実施

鳥取短期大学国際文化交流学科1年生の授業の一環として、大学内で「コレクション宅配便」による対話型鑑賞を実施しました。県立博物館から持参した版画、彫刻作品などを鑑賞しながら、グループごとに作品の見方や魅力を発見する授業となりました。

大学との連携を行っています

令和元年7月に鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会は連携協定を締結しました。美術館開館に向けて、短期大学の学生にコレクション宅配便や対話型鑑賞を用いた授業、当館のワークショップの中で見られる幼児の鑑賞活動についての授業などを行っています。



対話型鑑賞でのファシリテーション体験授業



6月16日に実施した授業「子どもたちの造形指導法1」の様子

6/2

PFI事業者による整備運営計画 説明ビデオを公開

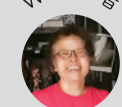


詳しくは中面にて!

ワークショップはどんなふうにつくっているの? ~ワークショップつくり隊!の活動をのぞき見!~

- 1 企画のアイデアを出す
企画のはじまりは意見交換から。多くのアイデアが飛び交い、企画を練り上げていきます。
- 2 ワークショップの内容を決定する
多くのアイデアを集約して、企画の内容を決定。準備する物品を確認します。
- 3 ワークショップをやってみる
当日を想定した実験を行い、所要時間やより良い制作の手順を整理します。
- 4 直前ミーティングとリハーサルを行う
進行の確認と、内容に応じて練習をすることも。ドキドキしながら本番を待ちます。
- 5 いよいよ本番!
メンバー丸となって、会場の設営、ワークショップの実施、会場撤去までを行います。
- 6 ワークショップを振り返る
ワークショップの感想や改善点を話し合いながら、次の企画のアイデアを相談します。

WS参加者



井戸垣淑子さん
平成30年からワークショップつくり隊!に参加中の私は、いろいろな得意分野を持つ仲間と日々止まりのやりとりで、家庭ではできない壮大な水遊びや美大生の作品展のサポートなど、たくさんのワクワクと関わってきました。この秋予定しているフィンランド展のお手伝いも、手ぐすね引いて待機中です。えうご期待!



担当スタッフ

外村文(美術振興専門員)
より良い企画を目指して本音で語り合い、アイデアを練り上げるワークショップつくり隊!のみなさんのパワーに感動です!! ワクワク感あふれるアートとの出会いの場を、ともしつづけていきたいです。

さまざまなアーティスト、
学校関係者、県民のみなさんとともに
美術館開館に向かっています!

7/3・7/31

教職員に向けた研修を実施

県教育センターと連携して、小学校図画工作の研修や採用2年目研修を実施。当館のコレクションを鑑賞しながら、作品から受けた印象を話したり、聞いたりする活動を通して、先生方自身に、見方や感じ方が広がる楽しさを体感していただきました。

Pass me! 04
につづく